

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
☎ 042-795-7361 (FAX: 必
要に応じて186を頭に加える)
議会 042-724-2171
yoshidaben@gmail.com



市長等と会派への挨拶「差別」

今期の一般質問項目、「3. 理事者の議会会派に対するあいさつについて」を記しました。

① 理事者の議会会派への挨拶周りはする、しないの差はあるか、② ①は、気分によって変えるのか、一貫した方針にもとづくかと尋ねました。

市長等の理事者は毎定例議会の会期末に全会派を挨拶回りする慣習があります。石坂市長(及び副市長、教育長)は同様に行ってきたが、近年は、特定会派によって挨拶する・飛ばすという差別を行っています。例えば、両側の会派には部屋に入って挨拶を行っているが、私たちが構成する「無所属会派」の部屋は、飛ばすことによって、この2年間以上にわたって挨拶を行ったことがありません。



答弁は総務部長が行い、「質問の意図がわからない」というものでした。私から見れば、質問通告を行って、その後、複数回のヒアリングがあって、答弁がまとめられたもので、「質問の意図がわからない(ので、適当な言葉が無い)」という答弁であったものでした。市長は政治的な判断で挨拶をしたくないのでしょうが、果たして、教育長までが人の目が届かないところで、追従するのは、いかがなものかと考えての質問でした。

モノレール町田延伸は15年以上先の話

町田市中心市街地のペデストリアンデッキの改修、修繕に関する方法や時期に関して一般質問を行いました。あわせて多摩都市モノレールの町田方面延伸の開通時期を尋ねました。

この種の鉄道・軌道建設は、多摩都市モノレールの箱根ヶ崎方面延伸、あるいは地下鉄有楽町線・南北線の延伸にしても、その工事路線の都市決定(用途地域や道路、公園等の施設等の都市計画を決定する)をしてから、それらはいずれも約10年を要する工事期間がかかる見通しが明らかにされています。今回の一般質問の答弁で分かったことで、多摩都市モノレールの町田方面延伸の場合は、予定路線の用地買収により時間を要するとの説明がありました。よって、町田延伸のケースは都市計画決定から開通まで十数年も要することを前提に町田市の発展のペースを考える必要があります。さらに、町田延伸の場合は、都市計画決定に至る大きな課題は、その延伸区間の永劫に関する採算性を明らかにすることが課題であり、区間の人の居住、就業状態をどうレベルで増大させるプラン作りの時間は必須で、都市計画決定まで更に数年は要します。



参考写真・那覇市内の
ゆいレール橋脚・通路

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

○町田市内企業が開発した「水耕栽培メロンの世界一決定戦」を開催しよう！

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしました

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ



個人HP

メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、
夏季休暇期間中の募集開始

インターン体験記：酒井 優子④

社会人としての将来目標と現在の取り組み

吉田つとむ議員の元インターンシップに参加しておられた方にお会いしてきました。その方は片柳美代子さんと言ひ、ゲーム開発や SNS といった IT 分野でのクリエイティブな仕事をされてきた女性でした。私がお話の中で印象に残ったのは、「将来成りたい像を想像し、そこから逆算して今からどう行動すればその将来に辿り着くのかを考える」ということでした。

片柳さんは、自身の中でそれぞれの会社での目標を定め、その目標を達成したら、転職するという形で、将来のヴィジョンを達成しようとしていました。現在は転職が一般化し、様々な会社でキャリアを積んでいく考えが強まりました。彼女の考えは、現在のこの思想に繋がっていると感じました。



全くの初対面の人に自分の将来のことを具体的に話すというのは初めての経験でした。しかし、自分のことを他者に話すことで自分の長所の発見に繋がりました。人に自分の悩みや将来のことを話すことは、これから自分がどう行動すればいいのかの指針になると感じました。

東京都立大学2年生 酒井 優子 (第53期生)

インターン体験記：酒井 優子③

南町田にあるスヌーピーミュージアムを見学

南町田グランベリーパークにある、スヌーピーミュージアムに行ってきました。博物館では常設展示のほかに特別展示や企画展示があるのが一般的ですが、スヌーピーミュージアムは常設展示のみという構成でした。展示内容は「スヌーピーグッズの展示」「作者である、チャールズ・モンロー・シュルツの経歴」「漫画の設定説明」「スヌーピーのオブジェとそれを用いたプロジェクトマッピング」「原画展示」最後に「グッズ売り場」というものでした。来場者としては、小学生を連れた親子連れや校外学習で訪れている高校性などが多い印象でした。

ミュージアムの建物自体は、入場口がスヌーピーの口になっていたり、独創的なデザインであり、アメリカの“チャールズ M・シュルツ博物館”と似た設計の部分もありました。そのため、スヌーピーミュージアムは“チャールズ M・シュルツ博物館”を参考にして作られたのではないかと感じました。若い年齢層が多いのに対し、展示の説明文は難しかったりと、施設全体として子供向けではない印象でした。しかし、スヌーピー自体は子供人気の高いキャラクターなので、その兼ね合いが今後の課題だと感じました。



東京都立大学2年生 酒井 優子 (第53期生)

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2024年5月末までに107名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。